

高田後継者

ゴト千七

MANGA REVIEW

『五葉』

あいらびくちあ

ふた昔前、不条理ギャグマンガが流行り廃れた。

吉田戦車を筆頭に、榎本俊二やその他いろいろなマンガ家があったが、ブームが過ぎた後は、潮が引くように不条理なものを描く者がいなくなった。

ところが21世紀も、数年経つと、不条理っぽい作品が出てくる。

教科書に載っている人物にラクガキしたような人物設定の『ギャグマンガ日和』。中央に顔のパーツが寄った人々がなにやかやする、地獄のミサワの『カッコカワイイ宣言』。内容が意味不明でネコが出てくる『クレムリン』と『ねこだらけ』。

そして、あらみけいいちである。

あらみけいいちは吉田戦車の正統後継者だ。

略して、吉田後継者。

いしかわじゅんの『漫画の時間』、「圧倒的違和感」の項に、吉田戦車のマンガについて、書かれている。単行本『鋼の人』の表紙について触れているが、高山地帯を背景にスイミングキャップを被り競泳水着を着た女性がヤクとおもしろき家畜を引き、そのものズバリ、圧倒的違和感と評している

あらみけいいちの『日常』の単行本の表紙も、その圧倒的違和感を醸し出している。授業中の教室らしく、机が並び生徒たちが各々、机の上に筆記用具とノートと教科書を出しているが、その中にひとつだけ、鹿が乗っている机がある。それにたいして、彼ら生徒はノーリアクションである。(おそらくは彼らの「日常」なのだろう)

これはあきらかに、吉田の『鋼の人』の表紙のオマージュだ。

そして、これがわかると、あらみが吉田戦車の正嫡とっていいほど、多くのオマージュやリスペクトをしていることに気づく。

ショートケーキに鎮座したイチゴのかわりに王将を乗せるのも、『伝染るんです。』で社長が、「さーて、取り返しのつかないことでもやろうか」と言って、ビデオデッキのカバーを取り外し、かき混ぜた納豆を塗すのを、だいぶマイルドにしているような、だが姉妹関係にヒビが入りかねないことをしている。

『Helvetica Standard』でタヌキが狸寝入りしたり、スズメが雀の涙ほどの持ち合わせを出す、などの動物がしゃべるというのも、どこか『伝染るんです。』のかわうそやスズメやカブト虫の齋藤さんに似た、共通の世界を共有しているような、印象を持つ。

ぜんまい仕掛けのロボット東雲なのは、もしかしたら『鋼の人』の表題作に出てきたロボットなのかもしれない。それとも、『一生懸命機械』だろうか。

そんなものの正体を見破ろうとする中村先生は、なにかに似ている気がするが思い出せない。強いて言えば、みっちゃんのママかシークレットグッズに気づかないことにほくそえんでいる齋藤さんの大家か。

熱血教師を「得体の知れない生き物」のように表現した山崎先生は、無味無臭に処理されて高崎先生になっている。囲碁サッカーの試合のときは違うが。

なによりも、不条理なオチで終わるマンガを描いても、かわうそがうなされるカップ君の毛布を直してあげるような(普段は「紫の涙を流すお父さん」という事実ではないことを話題にしてカップくんをいじめているのに)、どこか不器用な友情めいたことを『日常』では描かれる。

あらゐは吉田の不条理ギャグマンガの正統な後継者だったのだ。

そして、吉田にあって、あらゐにないものは、「親に毛嫌いされる不健全さ」だろうか。

教育テレビの番組を話題にするヤクザは、不健全である。このようなキャラクター設定の人物が『日常』には出てこない。

それがないから、Eテレと変わったNHK教育テレビでアニメを放送できる。

受験勉強もせず、霊山に籠り祈願して「大学に合格させたまえ」と、なまける不健全な学生とは違い、ゆっこは怠けたことを挽回しようとする。しかし、その挽回する努力が、あらぬ方向を向いているのは、ご愛嬌と言うところか。

Eテレ的な教訓めいたエピソードなのだ。

それから、女の子にも違いがある。

吉田戦車を知り合いのエロマンガ雑誌の編集者からマンガを発注された出自のために、どこか妖しいエロスを秘めた女性を描くのに対し、あらゐは『あずまんが大王』の二匹、いや三匹めのドジョウとして、かわいい女の子たちがただダベって何も大きな出来事が起きないマンガを描くことを要請され、現在の『日常』でも、いわゆる「萌える」女の子たちを描いている。

しかし、あらゐはそれだけでは、満足できなかったのだろう。

かわいい女の子の額から、甘食を出すような「飛び道具」を条理の枠を越えて出すのである。それはちょうど、鋼の人であるロボットの体から、おしぼりを出すようなものなのだろう。

吉田の正統後継であるが、時代と世代の差が、あらゐの作家性として表れていることがわかる。

さて、マンガレビューと言っても、おなじみのフレーズで終わるのがいいだろう。

「東雲家は今日も平和であった」

この一言があれば、なにがあっても、『日常』は日常なのである。

アニメについて

京都アニメーションが製作のため、別のジャンルである空気系日常ものを期待していた視聴者には、不条理ギャグマンガの話を受け入れる度量がなかったと思われる。噂だとネットでかなり荒れていたらしいので、そこは、少し残念だと思っている。

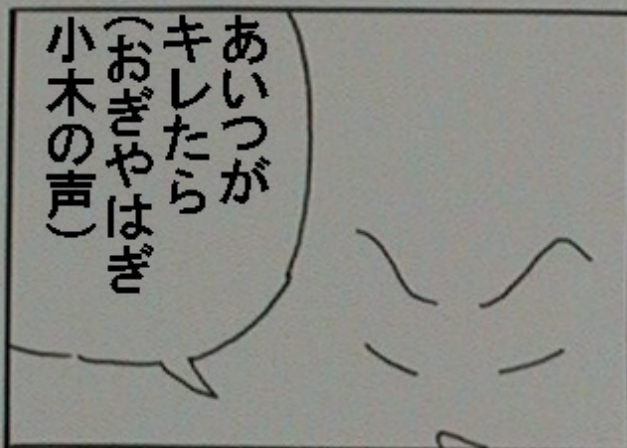
勝手に広告のコーナー

TBSラジオ 954 木曜深夜25時

JUNK おぎやはぎのメガネびいき

ゲスト出演者が出世していく
アゲチン番組
 아이폰&アイパッドユーザーは
ポットキャストで今すぐダウンロード
検索は
「JUNK」
「おぎやはぎ」
「メガネびいき」
のAND検索で！

あらめけいいち
もラジコで聞いて
いるはず。



ステルスマーケティング

吉田後継者 『日常』 あらみけいいち

<http://p.booklog.jp/book/46342>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46342>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46342>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.

青田田海軍

コム

MANGA REVIEW

『日常』
アノキョウシキ